

千葉商工会議所景気動向調査

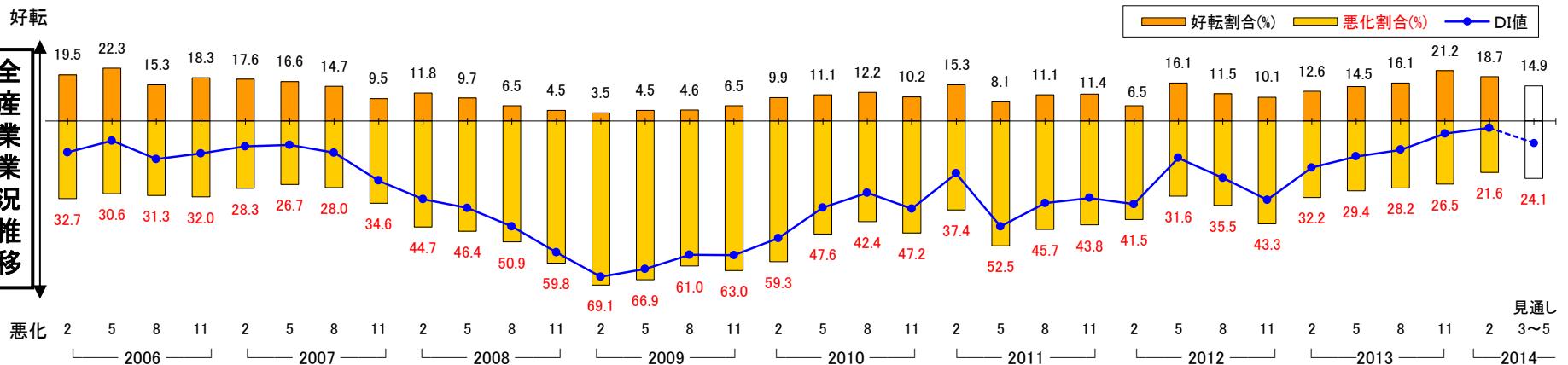
平成26年2月期調査結果報告

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

調査期間：平成26年2月12日(水)～2月20日(木)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 414社 回答率 82.8 %)



【全体の特徴】

2月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成25年11月、以下同じ)と比較して、製造業、卸売業、小売業で上昇した結果、全産業合計DIは2.4ポイント上昇して▲2.9となり5期連続で上昇、平成5年6月期の調査開始以来で最高値となった。一方、向こう3ヶ月(3～5月、以下同じ)の先行き見通しでは、建設業、製造業、サービス業で下降見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より6.3ポイント下降の▲9.2となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、卸売業、小売業、サービス業で上昇した結果、全産業合計DIは5.5ポイント上昇して1.5となり5期連続で上昇、また、6年6ヶ月ぶりにプラス値に転じた。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しでは、建設業、製造業、サービス業で下降見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より4.5ポイント下降の▲3.0となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、製造業、卸売業、小売業で上昇した結果、全産業合計DIは1.2ポイント上昇して▲15.7となり5期連続で上昇した。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しでは、建設業、製造業、サービス業で下降見通しとなった結果、全産業合計DIは現状より1.2ポイント下降の▲16.9となっている。

全体の総括としては、景況感は5期連続で上昇、建設業は業況DIが下降しながらも好調を維持、製造業も好調で、全産業のDI値を押し上げたが、従業員不足傾向が景況感に水を差している面もうかがえる。一方で先行きは、消費税率引き上げ後の景況を不安視する声が多く、下降見通しとなっている。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは6.8ポイント下降して20.0に、売上DIは3.6ポイント下降して15.4に、採算DIは7.2ポイント下降して▲1.2となった。業況DIと売上DIは3期ぶり、採算DIは2期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでも、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より下向くとの見方となっている。

企業の声としては、工事発注は増加傾向でも人手不足で対応できない旨を指摘する声が多数あり、さらには、資機材等の仕入価格上昇や4月の消費税率引き上げに懸念を示す声も複数あった。

・製造業

前回調査と比較し、業況DIは12.0ポイント上昇して1.2に、採算DIは6.1ポイント上昇して▲13.2となったが、売上DIは横ばいの2.4となった。業況DIは2期ぶり、採算DIは2期連続の上昇となり、売上DIは横ばいながらもプラス値で好調を維持している。

一方、向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より下向くとの見方となっている。

企業の声としては「消費税率引き上げ前の注文増」「年度末で単品・短納期の物件が多発」等の声がある一方で、税率引き上げ後の反動や税の製品価格への転嫁を懸念する模様がうかがえる。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは5.6ポイント上昇して▲10.0に、売上DIは25.9ポイント上昇して3.8に、採算DIは7.6ポイント上昇して▲18.8となった。業況DIと採算DIは2期連続、売上DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方となっている。

企業の声としては、「消費税増税による個人消費減退、商品単価への付加対応を懸念」との声に代表される消費税率引き上げ後の反動に関する声が複数あった。また、輸出入の不振による業務への影響を指摘する声もあった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは6.9ポイント上昇して▲24.3に、売上DIも1.9ポイント上昇して▲24.0に、採算DIはほぼ横ばいながら0.3ポイント上昇して▲34.7となった。業況DI、売上DI、採算DIとも2期ぶりの上昇となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しでも、業況DI、売上DI、採算DIとも現状よりも上向くとの見方となっている。

企業の声としては、消費税率引き上げ前の駆け込みによる需要増を指摘する声がある一方、円安の影響等による仕入価格上昇に苦慮する声が多数あった他、大雪の影響による売上減少を訴える声もあった。

・サービス業

前回調査と比較して、業況DIは7.3ポイント下降して▲4.7に、採算DIは1.1ポイント下降して▲12.9となったが、売上DIは3.1ポイント上昇して7.1となった。業況DIは2期ぶり、採算DIは2期連続の下降となったが、売上DIは4期連続の上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状よりも下向くとの見方となっている。

企業の声としては、「公共投資拡大に対する人・物の動きにタイムラグが生じ人員が不足傾向」といった声に代表される人員確保に苦慮する声が多数あった他、「降雪により臨時休業を強いられた」といった天候不順に苦慮する声も複数あった。

【調査結果のポイント】 * 業況DIが過去最高値を記録する一方、消費税率引き上げ後を不安視する声多数

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧いただけます。

http://www.chiba-cci.or.jp/general.php?cms_id=99

【全産業】

